

令和 3 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392500021		
法人名	株式会社 福祉フロンティア		
事業所名	介護予防施設 西光荘		
所在地	〒029-4503 岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根和光544-2		
自己評価作成日	令和4年1月19日	評価結果市町村受理日	令和4年5月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・西光荘は、県内で唯一、天然温泉を入浴サービス提供している施設です。 ・開業してから、まだ看取りまではいかないが、重度化した利用者様を可能な限り、介護サービスを提供しています。 ・専任の看護師がおり、利用者様が安心して過ごせるようにしています。 ・コロナ禍で出来ていなかった行事を分散し、少人数で開催し、楽しんで頂けるようにしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年4月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山林や放牧地に囲まれた自然豊かな環境に立地し、敷地内に同一法人の温泉施設があり、地域住民の交流の拠点となっている。コロナ禍対策のため、施設への訪問や面会などを制限しているが、地域の文化祭への作品展示や、小学校の児童による寸劇や踊りを窓越しに見学するなど、地域との繋がりを大切にしている。また、運営にあたっては、運営推進会議の助言を受け、足元センサーの設置や協議内容の充実を図り、職員の提案を受け、行事の分散開催や備品の整備に努めている。また、帰宅願望のある利用者に寄り添う「逆デイサービス」の提供や、家族へ毎月の機関紙やお便りにより生活状況などを知らせ、きめ細かな介護サービスを提供している。なお、併設している小規模多機能ホームと連携を図り、行事や入浴施設の活用など、ともに協力しながら、充実した介護サービスを提供している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念と介護理念の3項目を(日替りで1項目)、月2回の合同ミーティングでは、職員信条を唱和している。年間介護目標も掲示している。	開設2～3年目に職員で作上げた事業所の基本理念と介護理念は、朝のミーティング時、隣接の小規模多機能ホームの職員も含め、5～6名の職員が唱和している。また、職員の応募による年間介護目標を毎年度立て、職員間で共有して日々の介護サービスを提供している。管理者は、若い職員の気になる接し方等、理念を活用しながら改善を心がけている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で感染防止の観点から、直接的な交流は出来ていないが、地域の小学生よりDVDや手紙、作品を送って頂いたので、お礼の手紙を書いている。	コロナ禍のため、従来実施していた自治会やボランティアとの交流、温泉利用後の近隣住民との面会は制限しているが、地区の文化祭への参加、定例の学校行事となっている西小学校4年生の事業所訪問は、児童側からの懇願により実現し、玄関で利用者と距離を保ちながら、15名の児童の寸劇や踊りの披露を見学することが出来た。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所の職員が、町内対象とした週1回の「貯筋講座」、月2回の「ゆったりサロン」を担当している。町民文化祭への出品、今年は職員の撮影した紅葉の写真も出品した。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回だが、コロナ禍にて紙面開催していたが、11月より地区の研修センターを借りて開催する事が出来、行政、地域、ご家族の代表の方、他各委員より助言、意見を頂き、充実した場となった。	運営推進会議の提言や助言を受け、転倒予防のセンサーの活用やヒヤリハットの内容の報告など、事故の防止や介護サービスの充実に取り組んでいる。会議では委員が夫々発言され、今後も研修センターを借用しての開催を計画している。毎月家族に送付している利用者の写真付会報も、家族の了解を得て、各委員に提示し、利用者の生活や活動の理解の一助としている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	第三セクターの事業所でもあるため、その都度、町の担当者と連絡を取り、助言、指導を頂き、事業所からも相談、報告は常に行っている。また、包括ケア会議等に参加し、情報共有も、協力関係を築くようにしている。	保健センターや地域包括支援センターの担当者と常時連絡をとり、家族からの要請による介護認定の変更申請なども行っている。行政情報は、ファックスやメールにより随時提供されているほか、管理者は、町の診療所に出向いた際にも、必ず保健センターに立寄り、担当者から助言、指導を得ている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	合同ミーティング時に、身体拘束について、定期的に社内研修を行い、話し合い、常に認識しあって、日頃の介護に取り組んでいる。 (足センサー使用については御家族に報告、了解を得て、使用する際はON・OFF時間を記入している)	身体拘束に関する職員研修を、拘束、不適切ケアと虐待、スピーチロックをテーマに3回研修を行った。日々の業務の中では、乱暴な言葉遣いに気づいた時は、傍にいた職員が咳払い等で注意し合い、声掛けや介助方法などの改善に努めている。	身体拘束に関する制度上のルール等について、保険者から確認し、事業所内の取り扱いに反映されることが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時、排泄時などに身体観察を意識し、転倒防止に努め、変化があった時は、看護師、ケアマネ、職員等に報告、話し合い、注意を払う。時には、社長に報告、相談し、指導を受ける。社内研修に挙げるようにする。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修(ミーティング時)を開催する。(利用者の中で1名利用している)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時、利用者、御家族様に理解頂けるよう丁寧に説明することを心掛けている。また、両社の話を聞き、少しでも思いに近づけるよう努め、改定の際も速やかに報告し、理解、協力をお願いしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で家族との懇談会等は開けていないが、送迎の時や連絡帳を利用、電話がきた時に様子を聞いたり、意見を伺ったりし、反映に努めている。生活状況報告書、おたよりを毎月郵送している。	毎月発行の機関紙や居室担当作成のお便りにより、利用者の生活状況をお知らせし、家族の意向を伺っているほか、家族の来所時に聴き取り、要望等に対応している。入居間もない利用者の帰宅願望には、家族の協力と小規模多機能ホームの送迎を利用し、日中自宅で過ごす「逆デイサービス」を提供している。コロナ禍発生前には、事業所の夏祭り、敬老会、クリスマスの各行事に家族も招待し、約半数の家族が参加していた。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社長はミーティングにほとんど出席、相談は必要な時に行われ、職員の意見を伝える機会が増えた。	ミーティングでの意見や提言を受け、業務の改善や備品の整備に活かしているほか、職員との個人面談により、要望等を聴き、業務に反映させている。また、職員応募による年間介護目標を定め、採用者には賞を与え、職員の意識の高揚にも繋がっている。浴室給湯器の不具合を職員から指摘され、現在見積書の作成をお願いするまでに進んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の体調や家庭状況に合わせた労働時間の対応と職員の勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう努めている。しかし、職員不足のため、時間外勤務や負担の解消には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を計画、実施、外部研修の機会があれば、参加できるよう配慮しているが、職員のほとんどはパート職員で、労働時間の面で、他職員の負担がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、代表者の立場で同業者との交流、情報交換を行っている。ケアマネは個別ケア会議、管理者は包括ケア会議に参加し、情報共有、交流、相談の機会としている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用希望の家族様、利用者様：ケアマネ、管理者により、実態調査、担当者会議にて、一人一人に話を聞き、困っていること、要望等に耳を傾け、不安を軽くするよう努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	75と同様。家族様、利用者様に見学や体験を通して頂き、西光荘の雰囲気、職員を見て知って頂く。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時、環境の変化での事故防止に努め、職員間でできる事、できない事を話し合い、自主性を尊重しながら、必要に応じた支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできることを発見し、洗たくたみ、食器ふき、カレンダーめくり、新聞置等、自分の役割の日課にして頂く。時には、隣の利用者の簡単な見守りや世話をすることも見られ、支えあう関係を築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍で面会自粛期間でも、家族様へ利用者様の活動や生活状況を月1回知らせている。また、変化があった時は、随時連絡、報告をしている。通院は、基本、家族にお願いし、対応して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	19と同様。今は、少し落ち着き、町民文化祭に作品を出品・展示、希望者は見学に出かけている。 ・感染予防対策して、地域の小学生(ボランティアスクール)の催し物を見学した。	コロナ禍のため、馴染みの方の訪問や外出に制限があるが、これまで続けてきた地区の文化祭への出品や小学生の発表会への対応など、繋がりを大切にしている。隣接の小規模多機能ホームの職員や利用者や毎月訪問診療に訪れる金ヶ崎診療所の医師や訪問理容師が、馴染みの関係者となっている。また、帰宅願望のある利用者2名は、不穏時自宅で日中過ごしてくる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志の関係性を見ながら、席替えをし、落ち着く空間で過ごせるよう努めている。利用者様間で会話ができるよう工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	包括ケア会議等で転所先のケアマネより、様子を伺ったり、情報を提供したりしている。また、家族様より相談を受けた時は、快く対応している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に声掛けし、会話をし、食べ物や歌、塗り絵等、本人の希望や思いに添えられるよう努め、困難な場合は、説明をしたり、別な方法を一緒に話したりしている。	スムーズな意思疎通が可能な利用者は5名で、意思疎通困難な利用者とは、表情や、顔を背けたり、手を払いのけたり等の仕草等で確認している。気分の波がある場合は、少し時間をおいて確認もしている。利用者に寄り添い、要望の申し出や、洗濯たたみなどのお手伝いや塗り絵などの趣味、好きなおやつの提供など、きめ細かなサービスを提供している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	15と同様。小規模多機能型から入居される時は、小規模での生活が維持できるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様とのかかわりを申し送り、ミーティングで話し合っている。また、支援記録、申し送りノートにも記録し、情報共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝の申し送りや合同ミーティングで利用者動向から、課題と対応について話し合い、ケアの見直しに反映するようにする。利用者様とのコミュニケーションをとり、思いを受け止められるように努めている。	入居時には、介護支援専門員と介護職員の2名体制で事前確認の対応をしているが、約半数が小規模多機能ホーム利用からの入居で、入居当初の暫定計画の見直しは半年程度、通常利用者の見直しは半年から1年程度となっている。見直し時期には、利用者、家族から希望の確認をとり、モニタリングは、介護支援専門員が居室担当者からの状況報告を確認し原案を作成し、職員カンファレンスで話し合い、利用者や家族に計画内容を説明し、了承を得て計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務間のちょっとした瞬間や、昼食後に日々のかかわりや気づきを共有したり、記録し、職員全員に意識してもらったりして。			

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様やご家族様が困難となっている生活状況を把握し、支援援助し、時には専門医師の受診をとアドバイスしている。利用者様の行動に変化が起きた時には、ご家族様と話し合い、自宅へ逆デューサービスという形で送迎支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に介護相談員の訪問があったがコロナ禍で中止となっている。月一回の訪問理容は利用者様の癒しの一つになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大半の利用様は、金ヶ崎診療所から月一回の訪問診療を受け、健康状態を把握していただいている。時には専門医に受診して頂いている。	入居時には病状の安定を第一優先とし、かかりつけ医での継続受診を勧めているが、家族より訪問診療の利用を希望されることが多く、入居して状態が安定してからそれまでのかかりつけ医に紹介状を作成していただいている。現在、訪問診療受診が8名、入居前からのかかりつけ医受診が1名である。呼吸器科などの専門医には家族同伴で受診している。歯科は、訪問診療や個人医院に通院している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の全身状態の変化、異変に気付いた場合は、専従の看護師に状態報告し看護師の判断により受診できる体制をとっている。また、月一回の訪問診察時は、必ず立ち合い状態報告、指示を受けて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際、入院先の担当者と連絡を取り、入院中の経過の把握に努めている。退院時のカンファレンスにも参加し、退院後の支援計画の情報収集をし生活援助に生かしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に認知症の症状が重度化に伴い身体症状が悪化した場合は、必要に応じて次のステップへ移行していただく事を説明する場を設けている。又、契約時にも説明している。(但し、ADL全介助であっても経口摂取ができ、ほかの身体症状がない場合は継続入所で見ている事も伝えている。)	事業所での看取り経験はないが、終末期における介護サービスは、かかりつけ医の指示のもと、看護師による介助のほか、看護師の指導で対応している。事業所では複数の嘱託看護師が交代で週2回勤務しており、協力医との連絡等も円滑に行われている。また、利用者の状態低下や不安な症状にも、電話で指示を得ており、医療管理が必要な状態になるまでは、事業所に対応している。	施設内での終末期の介護サービス(知識、技術、ケアなど)と重度化・看取りについての取扱いについて、訪問診療の担当医師や関係者と協議をされ、職員の研修を通じた基本的な知識の習得など、一つ一つ取り組むことを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同ミーティング等の内部研修でオンライン研修を利用し急変時の対応の仕方を学習する機会を設けている。対応に当たった看護師が処置実践の必要事項を教えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会が中心となり年2回実施しているが、コロナ禍の為、消防機関は電話対応、地区消防団員の協力は得てない。災害対策としては、自家発電機により最低の電力、電気は確保できる状態であり、災害時でも適切な対応ができるようにしている。	併設している小規模多機能ホームと共同で防災訓練を実施している。訓練へは町を通じ消防団の協力を得ている。隣接する温泉施設へも通報体制が出来ており、夜間は小規模多機能ホームの職員と2人体制で対応が出来る。発電機、蓄電池、食材、飲料水を確保し、ハザードマップにより避難場所等も確認している。管理者は夜間想定訓練の充実強化を課題とし、4年度も取り組む予定にある。夜間避難路の暗さ対応として、センサー灯を設置予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員信条にある‘言葉遣いは柔らかく丁寧にする’を心がけて対応している。	職員信条により、言葉遣いや介助方法に万全を期し、利用者の心情や誇りを大切にしながら対応している。トイレでの声がけ、失禁への対応に細心の注意を払っている。異性介助や相性にも配慮している。職員の守秘義務の誓約書は5年毎に更新し意識強化を図っている。機関紙等への写真掲載は、家族の同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	排泄介助は勿論に事、思いやりのある優しい声掛けを意識して対応している。又、利用者様の表情を見ながら会話対応をしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	小規模との合同レクの参加、不参加や日々の作業等の希望を聞きながらそれぞれのペースでゆったりとした時間を過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方はご本人の希望で、そうでない方はご家族様が利用者様好みに準備していただいている。衣替えを定期的に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に応じた硬さ、刻み方で自力摂取できるよう支援している。上手く口に運べない場合は解除する旨を話し手伝うようにしている。夕食には季節の山菜や刺身、午後には手作りのがんづき、油饅頭(ドーナツ類)などを提供し喜ばれている。蕨の穂だ取りをしてくれた。	調理専門員による手作りの料理を提供している。季節の旬の食材のほか、お刺身や揚げ物のおやつなど、利用者の要望に沿った料理も提供している。家族の差し入れの山菜、職員提供の野菜も活用している。高齢化に伴い口に残りやすい焼き魚等は、素揚げや餡かけ風にしたり工夫もし、長いもを使った雑煮や季節の桜餅、おはぎ等、季節の行事に趣向を凝らし、楽しいものとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成している食材メニュー(外部食事業者)に沿って調理している。利用者様それぞれの状態に合わせ食事量、硬さ、大きさ、トロミを付けたりしている。水分量が少ないときは声掛けをし飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、口腔観察し自立で口腔ケアができる方でも声がけをし必要に応じて仕上げ介助をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できることを基本に考え、利用者様の排泄パターンを把握し声がけ誘導にて失敗しても排泄のあったことを喜び合える雰囲気になっている。排泄用品を利用者様個々に合った物を準備し、変化が見られた時職員間で随時、話し合いを持ち対応している。	排泄チェック表で、利用者の動向を把握し仕草を見て、案内誘導をしている。自らトイレに出向くのは2名である。要介護5の利用者は昼夜ともオムツを使用しているが、他の利用者はリハビリパンツにパットを併用している。夜間のホータブルトイレの利用はなく、全員、トイレでの排泄を行っている。援助を必要としてもしなくても、失敗しても、トイレでの排泄が出来ることを自立支援と捉え支援している。	

令和 3 年度

事業所名 : 介護予防施設 西光荘

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維摂取を基本に、おやつには乳製品や腸内細菌を増やす飲み物などで水分補給を促し、腹筋、腸を刺激する事を目的に足踏みなどのストレッチをしている。また、便秘薬については、看護師に相談、指示を受けている。(看護師は医師に相談している。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	天然温泉を提供している。利用者様にはとても好評で、入浴の順番は平均化されるよう工夫している。又、一人ひとりの希望やタイミングに合わせるよう心掛けているが、血圧や身体状態により短時間入浴、シャワー浴にしなければならない利用者様が 많아 なった為、現状では難しくなった。	小規模多機能ホームの大型浴槽で、複数の利用者が入浴している。週2、3回、毎日午前中の温泉入浴となっている。浴室の窓を開けると、春には桜の花見が、冬には厚く積もった雪を見ることができる。天然温泉は、皮膚の傷に効果がある他、湯冷めしにくく、夜間頻尿の解消にもつながっている。血圧が低めになったり、入浴後半に便失禁が起きる利用者もあり、短時間入浴等で工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた枕や毛布など馴染みの物を自宅より持参して頂いている。室温などに気を付け、淋しがり屋さんには、人の気配が感じられる場所への部屋替えをする等安心して休めるようにしている。畳で休める場所も確保している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の様子や変化を看護師に報告、相談、指示により服薬支援している。誤薬防止のため、職員同士で声がけ確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	目や耳から入る刺激を大切に、DVD等を活用している。併設している事業所、小規模と合同での季節行事などに参加している。カレンダーめくり、洗濯畳、食器拭き等、自分お役割だと手伝ってくれる利用者様もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えているが、天候を見てドライブに出かける様にしている。車椅子利用者様も福祉車両でドライブを楽しんでいる。又、診察のときも送迎診察援助している。更にご家族に了解を得、自宅へ逆デースサービスという形で送迎支援している。	天気の良い日の散歩は、事業所周囲を1周したり、駐車場に出たりしている。前庭で日向ぼっこ、日光浴にお茶会とおやつを兼ねる時もある。コロナ禍のため、今年度は分散してのドライブを実施した。施設前の菜園で春にはイチゴの収穫、夏にはプランターでナスやトマトの収穫で屋外に出ている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名：介護予防施設 西光荘

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点では、希望される利用者様は少数だが希望されれば応じるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があれば対応できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる様、七夕、クリスマスなどには利用者様と一緒に作ってホールに飾り付けている。季節の花や木の実なども飾り季節感を楽しんで頂いている。また、部屋の明るさにも気を付けている。	広々としたロビーに、食事用テーブル、ソファ、畳の間があり、利用者は、思い思いの場所でくつろいでいる。大型の引き戸と天窓からの光で明るく、クリーム色の壁は、利用者の折り紙、俳句などが掲示され、季節の飾りや花が生けられている。温度は、床暖、エアコンで適正に管理され、コロナ禍対策の空気清浄機も設置され、快適な生活環境となっている。酪農地帯にあり、春から秋は緑の草原が広がり、冬には真っ白な雪景色や吹雪が眺められる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係に配慮し座席を替えたり、ソファの位置を替えたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室でベッド、洗面台、整理ダンス、いす、ショート台が揃えているが本人が希望する者は、基本的に自由になっている。馴染みのものや、家族との写真を自宅より持ってきて飾ったりしている。	ベッド、洗面台、筆筒、ハンガー掛けが設置され、利用者の希望に沿った配置となっている。寝具の毛布、タオルケット等使い慣れた物を持参される場合が多いが、最近はこだわりの品を持参されることが少ないと管理者より聞きとった。家族写真や自作の絵や俳句の作品を飾っている居室もある。使い慣れた椅子や携帯ラジオを持参している利用者もあるとのこと。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーであり、手すりも設置されている。トイレや居室がわかるようにネームプレートをつけている。車椅子などの福祉用具を使う十分な広さがある。		